

# 山行報告書

【しんつくし山岳会】

月 日	2021年6月26日(土)		
山 域	六ヶ岳 周回	集 合	宮田登山口駐車場
目 的	筑豊の山に登る		
装 備	日帰り装備		
交通手段	自家用車 (.....) 計 12名		
行 程	宮田登山口 9:25～猿田山 9:43～出穂の峰 10:24～高祖の峰 10:37～上畑山 11:24 ～天冠の峰 11:50～崎門の峰 12:04<昼食>12:47～羽衣の峰 12:55～六ヶ岳(朝日 岳)13:12/13:40～龍ヶ岳北峰 14:08～龍ヶ岳 14:33～宮田登山口 15:04		
メンバー	高祖(L).....		

六ヶ岳は鞍手・若宮市・直方市をまたがる出穂、高祖、天冠、崎門、羽衣、朝日の六峰である。低山ながら広くない山域でアップダウンを楽しめる面白い山なのでこの山行を計画した。早朝の小雨があったものの曇り空で時折日も差すと言う天気、前日の40%の雨量予想が外れ良かった。参加人数12名の長い列になる為、後方を江さんをお願いして出発する。宮田登山口に車を停めて200M程福岡に戻り横断歩道を渡ると須賀神社への道がある。まずは安全祈願の参拝をして神社前の竹林を登り、難なく猿田(152.6)クリア。標には祇園山城址とも書かれてあった。猿田を下ると前方に赤いリボンの出穂の標があり、下見の際の急登を思い出し力が入る。登りが続き、さあ着いたかと思うと武憩平と言う開けた場所は休憩場所、通過地点である。もう一頑張り15分程登ると出穂(293)に。一息して尾根道を5分程歩くと高祖(260)に着く、天冠へは高祖を下りきると右に「長遠(じょうおん)の大イチョウ」への分かれ道があるが、前方にある木の根が吐出した方へ歩く。鳥の巣が近くにあるのか、沢水が流れる岩場の場所はいつ来ても囀りが聞こえる。狭間山の標を通りすぎ天冠の登り口から左方向の上畑山(130)へ。往復道で平坦な道を歩き、木に付けた小さな標で頂きを確認した。天冠(252)への急登にはくたびれた足に「苦行道」「易行道」の選択もあり、迷わず易い方を歩き登り上がった。天冠から15分程で白い鳥居と祠のある六嶽神社上宮のある崎門(272)に着く。ここで「昼食～!!」の掛け声。一気にやる気?と顔が緩む。前方の木々を伐採して作ったのか丸太のベンチ前は眺望もよく、山肌を通る風で汗が収まっていく。40分ほどの休憩、ザックの荷物をお腹に移動させ羽衣へと向かう。滑りやすい斜面に階段を掘る等、定期的な整備がされているのはこの山が愛されている証と理由であると思う。羽衣(315)の頂きを過ぎると陽の差す場所に湯文字山との標が付いている。そこから5分で六ヶ岳・朝日岳(339)に登り上がった。六ヶ岳は鞍手富士とも呼ばれているが、遮る物も無く筑豊地方の展望台とも、確かに360度の展望は見事である。景色を堪能してNHKの電波塔の横を下って行き龍ヶ岳北方(230)へ、本峰への道は虎の尾の紐が付けられたところを目印に左側面を下って行く。初めは急な斜面でわかりにくいが少し下ると道がハッキリしてくる。開かれた龍ヶ岳本峰(222)にはブロックで囲まれた石仏と中央には木片も祀られていた。下山はブロック横の出穂と書かれた⇒方向へ、落ち葉で覆われた急斜面をただただ下って駐車場へと続く舗装道路へ降りて行く。下見の際は不案内で歩きに時間を要した場所もあったが、参加者の歩きと、付けた印も少し役立った様で計画通りの下山時間になり良かった。沢山の参加ありがとう!!

